

第149回簿記検定試験
3級 出題の意図・講評

[第1問]

(出題の意図)

1. 約束手形による資金貸付けに関する問題です。借用証書による貸付けと、約束手形による貸付けの相違を理解しているかを問いました。
2. 売上取引に関する問題です。当店が得意先負担の諸掛りを立て替えて支払った場合の処理を理解しているかを問いました。
3. 債権の貸倒れに関する問題です。前期に発生した売掛金が貸し倒れた場合の処理を理解しているかを問いました。
4. 費用の支払いに関する問題です。振込手数料の処理を理解しているかを問いました。
5. 有形固定資産の売却に関する問題です。帳簿価額（取得原価－減価償却累計額）と売却価額の差額から固定資産売却損益を求めることができるかを問いました。

(講評)

全般的によくできていましたが、「指定された勘定科目を用いていない」答案が多数見受けられました。指定された勘定科目の中から選択して、正確に記入することを心がけてください。(各取引において、誤答が多かったのは以下の点です。)

1. 受取手形を用いて仕訳した答案が多かったです。資金を貸し付けて（借り入れて）手形を受け取った（振り出した）ときの処理を学習しておいてください。
2. 先方負担の発送費の処理の間違が見受けられました。商品売買取引における付随費用の扱い（当店負担なのか先方負担なのか）を学習しておいてください。
3. 正答率は高かったです。前期販売分の売掛金が貸し倒れたときの処理のみならず、当期販売分の売掛金が貸し倒れたときの処理も学習しておいてください。
4. 「振込手数料」を用いて仕訳した答案が多数ありました。
5. 「減価償却累計額」、「未収金」を用いて仕訳した答案が多数ありました。

[第2問]

(出題の意図)

経過勘定の決算整理仕訳に加え、費用に関する勘定科目の決算振替仕訳や経過勘定の期首の再振替仕訳も含めて理解しているかを問う出題です。初学者には難しい論点であるものの、簿記における損益計算の考え方を理解するためには欠かせない論点です。

本問で注意が必要なのは、前期と当期で支払額が異なるため、当期首の再振替仕訳と当期末の決算整理仕訳（翌期首の再振替仕訳）の金額が異なる点です。あらかじめ記載されている保険料勘定の当期の支払額¥26,400 および「() 保険料」勘定の合計¥29,400 がヒントとなります。

(講評)

保険料の空欄に当てはまる勘定科目として、前期繰越や次期繰越を使っている誤答が目立ちました。収益や費用の勘定を繰り越すことはないことを理解できていないか、もしくは点数を拾うために語群から当てはまりそうなものを入れたものと思われます。出題の意図にも記載したとおり重要な論点ですので、残念ながら不合格だった方だけでなく、合格しても本問を完答できなかった方はしっかり復習されることが望まれます。

[第3問]

(出題の意図)

3月末の合計試算表に4月の取引を合算して、4月末の合計残高試算表を作成する問題です。取引量は少し多いですが、各取引は基本的なものです。

取引を仕訳し、集計することにより、各勘定の借方合計と貸方合計を求め、残高欄にその残高を記入するといった一連の流れが理解できているかを問いました。

(講評)

取引の量は多かったのですが、いずれも基本的な取引であるため高い正答率でした。特に誤答で多いものはありませんでしたが、答案の合計残高試算表の合計欄に「4月中の取引のみを集計した」答案がありました。合計残高試算表、残高試算表、合計試算表について、各試算表の記入方法を学習しておいてください。

[第4問]

(出題の意図)

簿記に関する基本的な知識を問う空欄補充、用語選択の問題です。仕訳や帳簿記入も大切ですが、その基礎にある理論の知識も必要になります。

語群には多くの用語がありますが、1～5それぞれの文章に関連する用語はそれぞれにしぼられます。たとえば4の伝票に関する記述では、伝票の名称が適切な語句として選ばれるはずですが、したがって、伝票に関連すると考えられる用語を限定してその中から最も適切な語句を選ぶようにしましょう。

(講評)

1の貸倒引当金、3の建物の修繕、5の商品有高帳に関する問題は低めの正答率でした。1の問題は簿記の専門用語に関する知識を問う問題ですが、既出であり勘定の意味を理解するうえで基本的であると言えます。3の問題も既出の問題であり、過去に出題された問題を解くことで対策可能です。5の問題も関連する商品有高帳の記入問題を想定して考えれば理解は容易であると言えます。

[第5問]

(出題の意図)

残高試算表から決算整理を行い、最終的に貸借対照表および損益計算書を作成する問題です。決算整理事項等の多くは過去何度も出題されている基本的事項です。

決算整理事項等では、まず、内金の処理に注意しなければなりません。誤った処理としてどのような処理がなされ、本来なされるべき処理はどのような処理か、これを修正するためにはどのような処理が必要か、を段階的に整理して解答できるようにしましょう。

次に仮払金の処理が重要です。この処理を適切に行わなければ、備品減価償却の月割計算を誤ってしまいます。有形固定資産の取得、売掛金等の回収など、他の決算整理事項と関連すると思われる項目には特に気をつけましょう。

(講評)

過去によく出題されている決算整理事項が多く、平均点が高くなると予想していましたが、思ったよりも高くありませんでした。

あまり出題されていない内金に関する修正仕訳に関しては誤答が多くありました。内金の処理は、基本的内容と言えますので、パターンで覚えるのではなく仕訳の意味を考えた学習が必要です。

また、受取手数料の月割計算に関しても誤答が多く見られました。前払費用、前受収益、未払費用、未収収益などの項目は、苦手にする人も多いと思われませんが、過去問題を見るとほぼ毎回出題されていることがわかります。金額を計算しなければならないことも多いため、月割計算の意味や計算の仕方など、確実に得点源にできるように練習しておきましょう。